

成長・貢献・感謝

羽地中学校
 学校だより 77 号
 R1. 7. 26



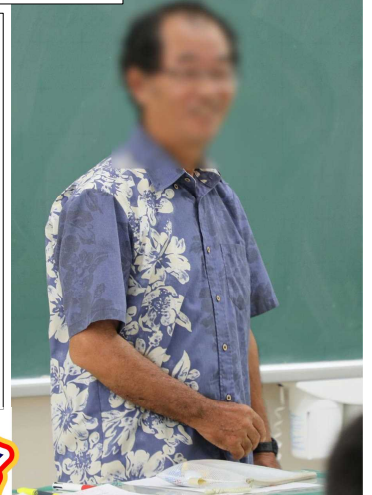
V.S 奇宮中・玉城中 バスケット県大会



中体連バスケットボール県大会、羽地中は22日(月)、那覇市民体育館において一回戦、奇宮中さんと対戦しました。
 湿度が高いせいか、ボールが滑りパスやドリブルがうまくいかず、散漫なプレイが多かったが、前半はドリブルシュート、カットインも良く決まり、羽地中リードで折り返しました。後半は相手のプレイが激しくなり、同点・リードの繰り返して展開しましたが、終盤、疲れてきた相手に対して攻め続け、57-47で勝利しました。
 続く二回戦は、強豪・島尻地区1位の玉城中さん。どれだけ展開できるか期待していました。実際にゲームが始まってみると相手のデフェンスが予想以上に厳しく、中に入る事ができずに、ミドルや3Pエリアからのシュートを余儀なくされました。



フールによるフリースローの攻めもありましたが、相手ディフェンスのシュートカットが良く、リバウンドの制空権もとれていなかったの、パスミスやドリブルミスからのターンオーバーで速攻をかけられる場面も多々ありました。相手チームで確実に得点を積み重ねられ、35-175の大敗に終わりました。
 翌日の決勝リーグでも玉城中さんは、松島中、港川中、北中城中を相手に全勝し、優勝したようです。県大会に出場して、相手チームの攻め方を勉強してきました。
 選手の皆さん、監督・コーチ、応援団の皆さん、一日かがりの県大会、お疲れ様でした。明日から、バスケットの上位チームをめざして練習・応援を頑張りましょう。



○・K先生・元羽地中校長

夢語れ一会

私の宝物(一)

○・K先生

35年間の教師生活を終え、9年も経っていても関わらず、私には忘れられないあの授業風景が目につかんでくる。
 管理者として、毎日の日課にしている各クラスへの授業参観をしていると、中学校に入学して間もないピカピカの1年生の国語の授業に引きつけられた。物と自分との関わりを原稿用紙一枚に収め、原稿に頼らずにスピーチすることをねらいとしている。

壇上上がったA君は、にこやかな表情でクラスのみんに、「みなさん、これは何だかわかりますか」と切り出した。人指し指と親指に挟まれた1cm四方ほどで、その小さな物体は、周囲には何なのかわからずとわがわが。A君は静かな口調で語りかけた。

「僕が小学校1年生の時に、母親に買ってもらった消しゴムです。6年間使ってきたので、こんなに小さくなりました。以前はもっと大きく、きれいな消しゴムでした。この消しゴムには、ほめられた時や怒られた時の思い出がいっぱい詰まっています。僕は、この消しゴムを小学校の『思い出の品』として大事に残していきたいと思っています。」と誇らしげにスピーチを終えた。

使えば使うほど愛着が湧き、思い出がいっぱい消し消し消し消し消し。母親の愛情がいっぱい消し消し消し消し。そのような価値を秘めた世界中にたったひとつしかない消しゴム。「そうだよね。宝物って、他の人から見ると一円の価値もないかも知れないが、真の宝物は本人にしかわからない、本人にしか価値を見いだせないものなのだろう」と私は考えさせられた。
 宝物が否か、決めるのは鑑定人ではなく、私自身そのものであることを教えられた授業風景でした。

私の『宝物』って何だろうと、改めて頭を巡らせてみる。本棚に所狭しと並んでいる本。上段の片隅に静かに隠れるように並べられている青春日記。それは大学の入学から卒業までの6年間を綴ってきた青春日記だ。(つづく)